

2026年度 客員教授学術講演会

# 書くことと 在ること

ハイデガーの手稿と

哲学の文献学

2026年

7月9日(木) 16:30 - 17:50

フェリックス・クリステン

**【講師】 Felix Christen**



ハイデルベルク大学でドイツ文学の授業を担当。オスナブリュック大学に所属するドイツ研究振興協会（DFG）のハイゼンベルク・フェロー。ブラウン大学およびジョンズ・ホプキンス大学で客員教授を務めた。18世紀から20世紀のドイツ文学・思想について幅広く著作を刊行している。

## 参加方法

**会場：成城大学3号館2階 321教室** 事前予約不要 直接会場へお越しください

\*参加無料（どなたでもご参加頂けます）

\*講演は英語で行われます（講演の日本語字幕あり 質疑応答の通訳あり）

## 講演要旨

ハイデガーはしばしば、自らの哲学は「作品」ではなく、「思索の道(Denkwege)」から成ると強調した。彼の講義録が哲学史にとって持つ重要性—たとえば京都学派への影響—は、これまでも長く認められてきた。しかし、思考の一つのあり方としての彼の「書くこと」そのものには、ほとんど注意が払われていない。本講演では、ハイデガーの手稿のいくつかを、1920年代における『存在と時間』の用語の形成過程との関連で読み、それを通じて、ハイデガーの思索の核心が、原稿を書いた直し、書いては直していたその方法と切り離せないものであることを示したい。ハイデガーの手稿の生成は、動き続ける思索の道—完成された作品ではなく—と彼が考えていたものと一体だということである。

■ 協力：



成城大学  
国際編集文献学研究センター

■ お問い合わせ：成城大学大学院文学研究科

E-mail : bunken@seijo.jp